

【タイトル】第43回通常総会並びに研修会

【担当部会名】女性部会

【日時】平成22年4月22日(木) PM2:00~:

【場所】法人会館

【演題】「税のよもやま話」

【講師】江東東税務署の高橋法人課税第1統括官

【概要】 高橋統括官は、昭和51年に採用され、納税者から提出される申告



書や提出書の処理を担当していたが、上司の勧めもあり、6年後に税務調査の業務に携わることとなった。

初めての調査は宝石やであったが、代表者と先輩の話を聞いてもさっぱり理解できなかった。調査二日目には先輩が風邪でダウンというアク

シデントが発生し、上司に電話で指示を仰ぎながら棚卸商品の確認を行い、大変な思いで調査したそうである。

また、ある水道工事業での調査での事案では、代表者は紳士的で従業員の面倒見もよく大変立派な人という印象を同統括官は受けたという。

しかしながら、多額の従業員退職金について調査を進めるうちに「死亡した従業員の病弱な妻を不憫に思って、妻に退職金を支払った」という代表者の説明は崩れ、「代表者自身の老後ために架空の退職金を計上し、その資金を蓄財した」と告白されたそうである。

この時、統括官は「**真実は自分の目と耳と行動力をもって確認すべき**」ということを痛感したという。

統括官は、最後に税務の職場の組織力の素晴らしさに触れるとともに、調査事務は大変にやりがいがある仕事であり、一生に残る仕事がしたいと話され講演を結んだ。